

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 愛知教育大学附属名古屋中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒461-0047
愛知県名古屋市東区大幸南一丁目126番地

E-mail 無し

Website http://www.nj.aichi-edu.ac.jp/

児童生徒数 男子245名 女子262名 合計507名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- その他（自然、産業）

3. 活動内容

テーマ

「持続可能な社会づくりの担い手を育むフィールドワーク（課題追究活動）」

1 ねらい

現代的な課題，身の回りの生活にかかわる課題を追究することを通して，

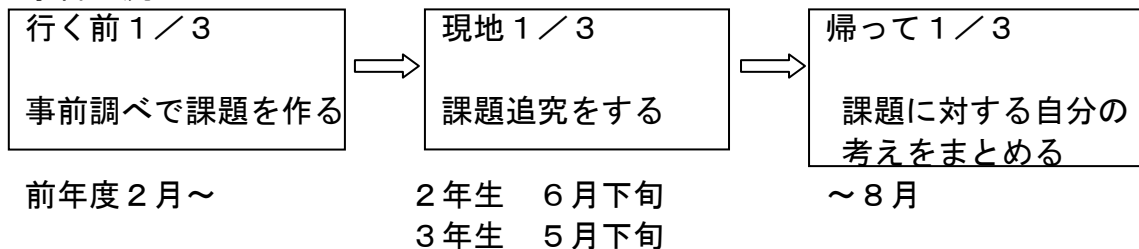
- ①各教科や領域で学んだことを総合的に生かす
- ②課題追究の成果を自らの生活に生かす
- ③生涯にわたって学び続ける態度を育む

2 課題追究のテーマ

宿泊地域の「環境・自然・歴史・文化・産業・平和など」

3 フィールドワーク（課題追究活動）の概要

学習の流れ



4 フィールドワークの実際

○ 2 年生

(1) 「小豆島の生活」の日程

1 日目・・・「小豆島を知る」島内見学（バス利用）

2 日目・・・「小豆島を調べる」フィールドワーク（バス・フェリー・徒歩）
個人の課題に基づいて，訪問先での資料収集，聞き取り調査を中心とした現地調査を行う。

訪問先（役場，オリーブ農家，醤油工場，観光協会など約 50 カ所）

3 日目・・・「小豆島を味わう」学級別分散行動（バス利用）

(2) 課題追究の実際の例

生徒が報告書に記載した内容から「①切り口②追究課題③現地調査④まとめ」の視点を抜粋して紹介する。

生徒 A

- ①産業
- ②生産者は，作物にどのような思いをこめているのか。
- ③東洋オリーブ株式会社→オリーブ園→スーパーマルナカ
- ④おいしいものをつくるために生産者一人一人が協力することが大切であると分かった。農業従事者が年々減少しているので，大きな規模で協力し合う日本の農業を考えていくことが必要である。毎日の食に感謝し，今後の日本の農業に目を向けていきたいと思う。

(3) まとめの冊子作成

課題追究の経過と自分の考えを、前述の①～④の観点でまとめた報告書を冊子として作成する。現地調査でお世話になった方にも送付している。

○3年生

(1) 「広島的生活」の日程

1日目・・・「平和学習」

被爆体験講話，平和公園資料館見学，折り鶴を捧げる会，合唱（原爆ドームの対岸親水テラスにて）

2日目・・・フィールドワーク（電車，タクシー，バス，フェリー，徒歩）

個人の課題に基づいて，訪問先での資料収集，聞き取り調査を中心とした現地調査を行う。

訪問先（広島城，海自第1術学校，お好み村組合，宮島水族館など約90カ所）

3日目・・・コース別分散行動（バス利用）

(2) 3年生の課題追究の実際の例

3年生では，2年生時の課題追究に「④現地調査課題，⑤仮説，⑥仮説の検証」の3点を視点として追加する。（生徒Bは，まとめを⑦と表記する）

生徒B

①平和

②平和を維持するためには，どのようなことをすれば良いか。

③本川小学校→原爆被害者団体協議会

④原爆被害者の原爆や平和に対する思いはどのようなものか。

⑤原爆の被害を受けた人達は，原爆を恐ろしい存在だと思っており，平和は争いのない世の中のことだと思っているだろう。

⑥仮説の半分は合っていて，半分は間違っていた。聞き取り調査により原爆の恐ろしさ，残虐さについては間違っていなかったが，本当の平和の意味が自分の思っていたものとは異なり，とても驚いた。

⑦実際に話を聞いたり資料を見たりすることで，原爆の恐ろしさや戦争の生々しさとともに残虐さについて知ることができた。一人一人が責任をもって行動することにより小さな争いを防ぐことができ，平和に近づいていく。平和とは自由があることと学んだ。相手と意見が違ったとき，意見を否定するのではなく，意見を尊重しながら解決していくようにしていきたい。

(3) 追究成果発表会

3年間取り組んできたフィールドワークの集大成の場として，「広島的生活」の課題追究の成果を，参観者に分かりやすく伝えることを意識して発表する。6月下旬～7月上旬の午後3時間を活用し，切り口ごとに10会場にわかれ，電子黒板や実物投影機などを使用して発表する。

(4) まとめの冊子作成

課題追究の経過と自分の考えを、前述の①～⑥の観点でまとめた報告書を冊子として作成する。現地調査でお世話になった方にも送付している。

○1年生

「車山の生活」について

1年生はフィールドワークを実施していないが、「車山の生活」を2・3年生の課題追究活動に向けてのきっかけとして位置づけている。体験活動を行い、疑問に思っ調べてことや、話を聞いたり直接体験したりして学んだことを作文としてまとめ、冊子を作成する。

1日目・・・飯ごう炊さん キャンプファイヤー

2日目・・・体験活動（「乗馬&レザークラフト」など8コースから選択する）

3日目・・・ハイキング

フィールドワークの全体計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 2月 | 3月 |
|------|--|----------------------------|---|------------|-----------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| 第1学年 | | 体験コースについての事前学習 体験コース決定 | ・体験学習 ・礼状書き 〈宿泊行事〉 車山の生活 | まとめの冊子原稿作成 | ・まとめの冊子完成 ・体験場所へ発送 | ・FW*についてオリエンテーション ・小豆島について知る | 小豆島についての事前学習 |
| 第2学年 | ・切り口の希望調 ・課題の明確化 訪問先の検討 | 追究課題の設定 質問票の作成 訪問先決定 | ・課題追究 ・礼状書き ・行動計画書の作成 ・マナー学習 〈宿泊行事〉 小豆島の生活 | まとめの冊子原稿作成 | ・まとめの冊子完成 ・訪問場所へ発送 | ・FW*についてオリエンテーション ・切り口の希望調査 | ・広島についての事前学習 ・課題の明確化 ・訪問先の検討 |
| 第3学年 | ・追究課題の設定 ・訪問先決定 ・仮説の設定 ・質問票の作成 ・行動計画書の作成 | ・平和学習 ・折鶴作成 | ・課題追究 ・礼状書き ・成果発表会の準備 ・まとめの冊子原稿作成 〈宿泊行事〉 広島的生活 | 成果発表会 | ・まとめの冊子完成 ・訪問場所へ発送 | | |

※ FW : フィールドワーク

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）